



2025 年 8 月 7 日

各 位

会社名 株式会社アイ・ピー・エス
銘柄名 株式会社 I P S
代表者名 代表取締役 宮下 幸治
(コード番号：4390 東証プライム)
問合せ先 管理部長 赤津 博康
(TEL. 03-3549-7719)

連結子会社における新規事業の開始に関するお知らせ

フィリピンにおいて電気通信事業を営む当社連結子会社 InfiniVAN, Inc. (以下「InfiniVAN」) が、国際海底ケーブルの陸揚局に関する新たな事業を開始することとなり、同国において陸揚局建設の起工式を開催いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

1. 事業開始の趣旨

InfiniVAN は、フィリピン・ルソン島東岸 Baler において、国際海底ケーブルの陸揚局 (Cable Landing Station: CLS) を建設し、その管理・運営事業を始めることといたしました。陸揚局を自社で建設・保有することは、国際通信インフラへの戦略的投資となります。陸揚局は、海底ケーブルと国内通信網を接続する拠点であり、完成後は自社の重要な固定資産として運用されます。

当該事業の概要につきましては、5 月 13 日付の当社ニュースリリース「フィリピン通信子会社 InfiniVAN、大成建設株式会社とともに、同国東岸の Baler に新たな海底ケーブル陸揚局を建設するプロジェクトに着手」にてお知らせしておりましたが、Baler にて 8 月 6 日、陸揚局の起工式を開催いたしました。Department of Information and Communications Technology (情報通信技術省) の Henry Rhoel Aguda 大臣より祝意を示すビデオメッセージが寄せられたほか、在フィリピン日本国大使館や、日本及びフィリピンのメディア関係者等、多くの方々にご参加いただきました。

Baler 陸揚局では、特定の通信キャリアに専有させない「オープンアクセス※」ポリシーを掲げており、あらゆる国際キャリアが平等に接続可能なフィリピン初の極めて先進的な国際通信インフラ施設としての陸揚局となる予定です。また Baler は、日本や米国からの通信を、フィリピン西部の南シナ海のいわゆる「九段線」を避けた地政学的リスクの少ないルートで陸揚げし、アジアへの本格的なゲートウェイにできる稀有な国際海底ケーブルルートの一環となる見込みです。

※オープンアクセス…特定の通信キャリアに限定することなく、どのキャリアの回線でも接続できる運用ポリシー。多様なケーブルが適切な価格で接続し、ケーブルを運用できる魅力的な場所となることを目指す。

当社グループは、この陸揚局を通じて、通信キャリアやクラウド事業者、データセンター事業者に対し、帯域接続サービス、通信設備の保守・運用サービス、ラックスペースやクロスコネクトなどの設備利用サービスを提供しています。これらのサービス提供により、契約に基づく接続料・利用料・運用保守料等の継続的な収益を回収していくビジネスモデルであり、初期投資に対して中長期的なリターンが見込まれるストック型インフラ収益事業です。

これまでフィリピンにおける陸揚局の多くは、特定の通信キャリアがその施設および国際回線を排他的に保有・運用する構造となっており、結果として国内回線における競争が制限され、国内回線のコストが国際回線よりも高額になるという逆転現象すら発生していました。Baler 陸揚局は、この課題に真正面から取り組み、障壁を撤廃いたします。国内外の通信キャリアやテック企業が自由にアクセスできるオープンプラットフォームを実現することにより、国際海底ケーブルの設置を検討するコンソーシアムやグローバル企業にとって、フィリピンがコスト面でも競争力のある接続拠点となる見通しです。

さらに、今後 AI の進化により求められる次世代 AI データセンターの多くは、低遅延・大容量を実現する高品質な国際通信インフラとの直接接続が不可欠です。Baler 陸揚局はこのニーズを満たし、「オープンアクセス陸揚局+AI データセンター」の最先端モデルとして、フィリピンおよびアジア太平洋地域における新たなテクノロジー拠点の中核を担うポテンシャルを持ちうると考えております。

国家や企業の回線の冗長化・多重化戦略において極めて有利な立地であり、特に高可用性が求められるクラウド事業者や大規模コンテンツ配信事業者に大きな訴求力を持ちます。このプロジェクトは、単なる設備投資にとどまらず、日本・米国などの環太平洋諸国とアジアを直接つなぐ通信ルートを新たに開拓する、経済安全保障上も、戦略性の高い国際インフラ投資です。

Baler 陸揚局は、将来的に AI 処理に特化したデータセンターの併設を視野に入れた一体開発構想も有しており、国際回線と AI インフラの一体運用により、フィリピンを東南アジアの分散型クラウド基盤の中心に位置づける可能性も見込まれます。また、Baler 陸揚局からマニラ首都圏まで約 230 キロメートルを結ぶ中継回線を 2 ルート整備し、国際回線で伝送されるデータの冗長性を確保します。

Baler 陸揚局のポイントは、以下のとおりです。

- ・フィリピン初のオープンアクセス陸揚げ局
- ・通信市場の非競争的構造を抜本的に改善
- ・国際ケーブル投資の促進と国内コストの最適化
- ・AI・クラウド時代に不可欠な低遅延ハブとしての成長期待

2. 新たな事業の概要

① 国際回線の接続サービス

海外からの海底ケーブルを国内の通信キャリアやデータセンターへ接続し、通信帯域を提供。

② 通信設備の運用・保守サービス

光中継装置や波長多重装置などの通信機器を常時監視・保守し、安定した通信環境を提供。

③ クロスコネクト・施設利用サービス

陸揚局内で複数の通信事業者間の相互接続や、機器設置スペース・電源などの設備を提供。

3. 当該事業を担当する連結子会社の概要

(1) 名 称	InfiniVAN, Inc.
(2) 所 在 地	17F Ore Central Building, 31st Street Cor., 9th Ave., BGC, Taguig City, Philippines
(3) 代表者の役職・氏名	President 中原 茂樹
(4) 事 業 内 容	フィリピン国内における法人向けインターネットサービスの提供
(5) 資 本 金	1,915 百万フィリピンペソ
(6) 設 立 年 月 日	2015 年 4 月 20 日
(7) 決 算 期	12 月
(8) 大株主および持株比率	株式会社アイ・ピー・エス (55.2%) CorporateONE Inc. (44.8%)

4. 日程

(1) 起 工 式 実 施 日	2025 年 8 月 6 日
(2) 工 事 期 間	約 1 年（予定）

5. 今後の見通し

当該事業開始により、2026 年 3 月期の当社連結業績に与える影響については軽微であります。今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上